

平成25年度小学生バレーボール・フリーポジション制競技規則の取扱いについて

※ 〈p. 〃〉 は6人制競技規則（ルールブック）の該当ページ

○テクニカルタイムアウトについて

〔該当規定〕 〈p.97〉 第4条 試合の進行 の6

6 第1セットおよび第2セットでは、リードするチームが11点に達したとき、第3セットでは、リードするチームが8点に達したときは、30秒間のテクニカルタイムアウトが自動的に適用される。

〈p.98〉 付則1

選手の健康と安全に配慮して、特に5月から10月までの間に開催する大会では、テクニカルタイムアウトは、給水のためのタイムアウトとして適用し、選手に給水をさせなければならない。

【解説】

小学生の試合におけるテクニカルタイムアウトの目的は、通常のタイムアウトと区別し、選手の健康と安全に配慮することを趣旨としている。従って審判団（特に副審）は、その趣旨のもと子供の体調を観察する時間ととらえて、ベンチコントロールしなければならない。

特に5月から10月までの期間では、給水を優先させなければならない。従って水筒などが選手のもとに用意されているか、逆にベンチスタッフが給水を妨げるような行為をしていないか監視し（飲む飲まないは本人の自由だが）とにかく給水を促す。なお、選手がアップやストレッチをしたり、モップをかけたり、あるいは控え選手がうちわで他の選手を扇ぐなど、安全管理のためのこれらの行為は禁止ではないが、ベンチスタッフや審判団は、給水を促し、体調を窺う声掛けを積極的に行うこと。試合チームの選手はもちろん、審判補助員にあたって子供達にも、給水と健康・安全のための配慮を行うこと。なお、補助員の水筒は得点板の裏側など、試合の妨げとならない位置に置き、また床を濡らさないよう十分配慮すること。

〔手順〕

●第1セットおよび第2セットでは、リードするチームが11点に達したとき、2nd Refereeが吹笛し、同時に計時（30秒）に入る。このときのハンドシグナルは特に無いが、もし選手が解かっているようであれば、ベンチにさがるよう声掛けや手振りを加えてもよい。

●第3セットでは、リードするチームが8点に達したとき

①1st Referee はコートチェンジを行う。

②両チームのコート上の6人が、ネットの反対側に移動したら、それぞれのベンチにさがるよう誘導し、両チームの選手全員がベンチ前のフリーゾーンに出たのを確認してから、2nd Referee は吹笛し、同時に計時（30秒）に入る。特に主審の後ろを回るチームは遠回りしてベンチに戻ることから、テクニカルタイムアウトの時間に不利が生じないように、6人をすみやかに移動させ、全員がベンチに近い側のサイドラインを越えたら吹笛・計時すること。

なお、選手の給水場所は、全員が自チームのベンチに近い場所で行うこと。〈p.54〉 15.4.4

## ○セットの勝者

〔該当規定〕〈p.97〉第5条 得点を得て、セット・試合に勝つこと の1

1 セットは（第3セットを除き）、最低2点をリードし、先に21点を得たチームが取る。20-20の同点になった場合は、（22-20, 23-21のように）2点のリードが得られるまでプレーは続く。

セットカウントが1-1のタイになった場合には、第3セットは、最低2点をリードし、15点になるまで続けられる。

### 【解説】

第3セットは、先に15点を得たチームが取る。14-14の同点になった場合は（16-14, 17-15のように）2点のリードが得られるまでプレーは続く。

## ○選手交代の制限について

〔該当規定〕〈p.97〉第6条 選手交代の制限

各チームは、1セットにつき12回までの選手交代が認められる。

### 【解説】

「第3条 3 交代選手のサービス順は、被交代選手の順位とする」の規定を順守したまま、スターティングメンバー6人全員が、それぞれペアリングされた控えの6人（チーム選手が12名の場合）の選手と2回ずつ交代した場合において、この規定に定める最大の12回の選手交代となる。従って、記録用紙も通常の6人制（3セット用）を用いて記入が可能である。

2nd Referee は、11回目と12回目の競技者交代を 1st Referee 及び監督に通告する。11回目と12回目を示す 2nd Referee の指の使い方は、それと分かればどんな形でも構わない。

## ○不法な行為と罰則について

〔該当規定〕〈p.65〉21.1 軽度の不法な行為（MINOR MISCONDUCT）の中段

ステージ1：ゲームキャプテンを通じて口頭での警告をする。

ステージ2：該当する選手にイエローカードを使用して警告をする。

### 【解説】

小学生での適用は、ステージ1の前段階に『教育的指導』を入れる。両チームのゲームキャプテンを呼び、やってはいけないことを教え繰り返さないよう口頭注意を与える。それにもかかわらず繰り返した場合には、競技規則に則り、ステージ1から段階的に罰則を適用していく。

<具体的な適用方法>

相手に向かってガッツポーズするなど「軽度の不法な行為」に対して

- ・ 1回目は両ゲームキャプテンを呼び、口頭で『教育的指導』を与える（小学生独自）
- ・ 2回目は当該チームのゲームキャプテンを通じて口頭で警告（ステージ1）
- ・ 3回目は行為を行った選手を呼び、イエローカードを使用して警告（ステージ2）
- ・ 4回目以降は行為を行った選手を呼んでレッドカード（ペナルティ・1点を失う）

以上